

臨床実践に役立つ実習授業のあり方の検討

心理発達臨床専攻・信原孝司

1. 授業の概要

臨床心理基礎実習1は、心理臨床の基礎的な知識と技術の習得を主な目的とした実習授業である。この科目は、心理発達臨床専攻の院生にとっては必修科目であり、履修者が臨床心理士・公認心理師資格の取得を目指していることにも特徴がある。なお、大学院入学後に最初に学ぶ実習科目でもある。

2. 導入

授業では、最初に授業計画を立て、初回に履修生へ周知徹底するようにしている。これによって履修生は今後の見通しを持って授業に取り組むことが出来、事前に必要な予習して授業に臨む等の効果を期待している。

以下は今年度の授業内容である。

授業回	内容（知識）
1	オリエンテーション
2	専門性、倫理
3	心理査定
4	心理学的処遇
5	
6	
7	様々な援助施設
8	
9	
10	精神医学的知識

授業回	内容（技術）
1	オリエンテーション
2	基本的関わり技法・ロールプレイ 2分
3	関わり行動・ロールプレイ 3分
4	会話への誘い・ロールプレイ 3分
5	明確化・ロールプレイ 5分

6	感情や情動・ロールプレイ 5分
7	ロールプレイ 7分
8	要約技法・ロールプレイ 7分
9	技法の統合・ロールプレイ 10分
10	ロールプレイ 10分
11	試行カウンセリング
12	試行カウンセリング
13	試行カウンセリング
14	試行カウンセリング
15	試行カウンセリング

3. 授業内容

「知識」内容の授業は、テキストの調べ学習を中心とした基本的な知識習得のための調べ学習の授業である。履修生に担当を振り分け、担当項目の内容についてレジュメをまとめ、授業で発表し、全体でディスカッションの後、授業者から補足をする。

「技術」内容の授業は、心理療法の基本的な応答技術を習得するための実践授業である。「知識」内容の授業と同様に、各担当院生がテキストをレジュメにまとめた発表の後、関連項目の技法習得のためのビデオを視聴し、2分～10分のロールプレイ（心理療法の模擬練習）を毎回実施する（授業進行に応じて時間を延長）。最後に感想や質問を受ける時間を取っている。

なお、授業11回目以降は、それまでに習得した知識と技術の総仕上げとして、試行カウンセリング（心理療法の本番を想定した模擬実習）に入る。これは、履修生が各自で相談者役割を取ってくれる学部学生（深刻な心理的問題を持っていない学生）を探して依頼し、1回50分の心理療法の試行を5回に限って実施するものである。試行カウンセリングでは、履修生は試行カウンセリングをICレコーダーで録音し、その内容の逐語記録を作成して授業者との検討に臨むようにしている。

4. 授業での工夫

限られた時間の中で盛り沢山の内容を習得するために、また最初の心理臨床実習であることから学び易くするために、以下の工夫を行っている。

I. 発表資料をまとめる際、インターネットの情報に頼らず、履修生が出来るだけ実際の文献に当たるように指示 … 専門用語の説明など、インターネットの検索で容易に調べられるものもあるが、出来るだけ専門文献を読んで理解し、何が大切かを自分の頭で取舍選択し、考えさせるように配慮している。

II. 履修生が自分達の意見を発表する形式（ディスカッション）を盛り込む … ディスカッションは毎回の授業で行なうが、履修生の質問には、出来るだけ受講者全員でディスカッションするようにした。教員が直接応えるのではなく、自分で考えたことを発表することによって、知識や技術の整理に役立たせるように配慮した。

III. 視聴覚映像を利用し、履修生の印象に残るような工夫 … 知識や技術の習得に役立つよう、可能な限り視聴覚映像を利用するように心掛けた。

IV. 毎授業の最後には、履修生からの質問を受け付ける時間を設置 … 授業が双方向となるようにするため、授業の最後には感想を述べてもらい、質問を受ける時間を設けるように配慮した。

V. 以前は3限に「知識」内容の授業、4限に「技術」内容の授業としていたが、「知識」内容の授業を終えてから、「技術」内容の授業に取り組むようにした。

5. 工夫への成果と課題

授業での工夫には、次に述べるような成果と課題があった。

I … 実際の文献に当たる成果はあったが、発表者間で引用文献の数に偏りがあり、インターネットでの情報が多い場合もあった。もちろん善し悪しはあるが、発表の中身を工夫するような指示があっても良かったかも知れない。

II … ディスカッションが活性化し、理解が深まったこともあったが、如何に活性化させるかは課題であった。ディスカッションの善し悪しは発表者がどのように司会進行するかに掛かっているが、事前の目的意識を持った取り組み・準備は重要になると思われた。

III … 出来るだけ視聴覚教材を用いることで理解が深まる成果は大いにあったが、一方で履修生が受身になる課題もあった。視聴覚教材を提示する前に、どのような意識を持って視聴するかの情報を提示する工夫が必要と思われた。

IV … 質問を受けてディスカッションすることで授業内容の理解は深まったが、授業時間が足

りない時も複数回あった。授業予定に少し幅を持たせるように心掛けることで改善出来るかも知れない。

V … 知識を終えてから技術内容に取り組んだ方が、集中して取り組めるメリットがあった。今後も同様の進め方で授業を展開したい。

6. 授業アンケート結果

履修生が提出したレポート中の授業評価では、授業内容や授業方法については支持的な評価が多かった。特に映像視聴とディスカッションの構成は支持が多かったので、今後もこの授業形態を継続したいと考えている。

授業進行においては、時間配分に課題があった授業回もあった（授業時間が足りなかった回があった）。ディスカッション形式も確保しつつ、どのように授業進行に幅を持たせるかは継続的な課題である。